

Anniversary !

今年度、総合福祉施設 塔南の園と修徳が、それぞれ開設25周年、20周年を迎えました。

コロナ禍でこれまでと違う日常でしたが、ご利用者、ご家族、地域の皆様とお祝いイベントを開催しました。

塔南の園 25 周年

修徳 20 周年

塔南の園「ありがとう」を0歳～100歳に伝えたい

1996年12月1日開設の総合福祉施設塔南の園が、無事開設25周年を迎えることができました。

ここまで運営を続けてこられたのはご利用者、ご家族はもとより、地域住民の方の支えがあったからに他なりません。支えてくれた人に「ありがとう」を伝えること。そんなシンプルな思いをどう形にするか「総合福祉施設として」考えました。

児童福祉と高齢福祉を実践する塔南の園のご利用者はマタニティを含む0歳から100歳以上、さらには子どもの保護者やご利用者のご家族、地域住民も。コロナ禍で世の中は暗いことばかりですが、少しでも明るい話題を提供できないか、外からも、中からも楽しめることを検討し、みんなが見える位置にイルミネーションの飾りつけをしました。中庭で伸びに伸びていた木の枝も施設職員が剪定しました。

12月1日は児童館職員と中学生が歌と演奏でイルミネーション点灯式を行うことに。地域住民の方も参



加され盛んに点灯式を開催しました。さらに点灯式の様子を児童館のInstagramでライブ配信しました。12月11日には、いつもお世話になっている地域住民の方を対象に、2525（二コニコ）カフェを開催して、「ありがとう」を伝えることができました。

これからの塔南の園

施設のご利用者はもとより、ご家族、地域住民の方にも、「塔南の園があってよかった！」「塔南の園に行けば楽しい！」「まずは塔南の園に相談しよう！」等々、皆様の【要】となるような施設でありたいと思っています。総合福祉施設塔南の園の対象者は実際に施設を利用される人だけではなく、地域に住むすべての人だと再認識し、26年目に突入します。

おかげさまで修徳20周年!!新たなスタートと今後の発展を

2001年7月16日開設以来、ご利用者、ご家族、地域住民の方の施設に対するご理解ご協力、温かいご支援を賜り無事20周年を迎えることができました。コロナ禍ということもあり、記念式典などのイベントは控えることになりましたが、おかげさまで修徳20周年!!横断幕を作成し、施設ベランダに掲揚しました。職員、ご利用者、図書館の皆様にご協力いただき、これからの希望や願い、これまでの感謝の気持ち、イラストなどのメッセージを書きました。



児童館ではお祝いの乾杯！

修徳の20歳の誕生日に、子どもたちとジュース片手に「おたんじょうびおめでとう」と乾杯。ひんやりしたコンクリートの建物ではなく、“暖かく思いの通うみんなの場所”であることを深く感じた瞬間です。コロナの経験からSNSの活用を進めるとともに、アナログの魅力も痛感することとなり、関わりあうことをより丁寧に意識するようになりました。

11月には、下京中学のグラウンドで、お祝いイベントにいろいろマルシェスペシャルにも多くの方に参加していただきました。ゆっくりおしゃべりすること、思い切り体を動かすことなど、なんでもない日常が子どもも大人も笑顔にしました。

いつでも来られる場所、いつでも帰って帰ることができる場所。そこは暖かく自分らしくいられる、いつも誰かが待っていてくれる場所。地域の中に児童館がある価値をさらに追及していく時代に入ります。



修徳児童館の周年記念動画はこちら

児童館



岩倉に
笑顔広がる
子どもから



つながって
いいね！で
始まるワクワクを



木漏れ日に
幸せ紡ぐ
笑顔かな



志せ
地域の要
目指すべし



スタッフの
チャレンジ魂
アシストす



手をとって
地域の暮らしを
支えよう



それぞれの
思いが実る
アイデア頂戴！



健康と
楽しむ余裕と
リスペクト



年女 まだまだ
寅(トラ)イ
攻めの一年



古雅(久我)の杜
みんなの笑顔
集う場所



大改革
笑顔と気力で
全集中！



いきいきと
働きやすい
職場に



利用者も
職員・地域も
三方よし

施設部



「グッジョブ」と
気遣い合って
好循環



はつはるに
リ・ボーン誓う
小川から



新天地
笑顔に染めよう
壬生のまち



凡事徹底
小さなことから
コツコツと



手をつなぎ
地域を走る
南総合ステーション



ぬくもりと
笑顔あふれる
西七条



初日の出
ご利用者の笑顔
今年も共に



四季に咲く
花一輪は
あなたの笑顔

居宅部



One for all
All for one



皆ともに
笑顔で過ごす
一年を！



前を向く
未来は今日
作られる



寄り添って
繋がり輪を
広げます



いつまでも
「ほのぼの」
すごしていただく
お手伝い



添える手と
看まもる心に
愛を込め

2022年
今年の抱負をかるた風に

西院老人 DSC 職員／厚労省「認知症希望大使」

下坂厚の写真日記 ②



No. 19号から隔月でスタートしたこの企画では、協会職員の
下坂厚さんが自ら撮って選んだ、お勧めの写真をご紹介してい
ます。素敵な写真を愉しんでください。



お正月 奥さんと上賀茂神社へ初詣に行き、寅みくじを引
きました。私は小吉でした。



冬に咲く花 スノードロップ。植物園にも咲いています。



岩倉地域包括の皆さん、叡山電鉄さんと取り組んだ駅カフェ
が NHK 厚生事業財団の『認知症とともに生きるまち大賞』
の特別賞を受賞しました。

チーム上京！

第5回「認知症とともに生きるまち大賞」受賞 ～ 高齢者福祉施設 小川 中島 慶行施設長 ～

認知症になっても、これまでと変わらず住み慣れた地域で安
心して暮らしていくためには、地域の中で助け合える仲間の存
在が大切です。誰もが無理のない範囲で、ほんの少しの興味・
関心を持って、自分にできることを考えるだけでも、世の中は
もっと暮らしやすく、楽しく
なっていると思っています。

「チーム上京！」は、認知
症の当事者である安達春雄
さんを中心に、上京区民や福
祉専門職など、多様なメン
バーがチームを組んで、安達
さんとの対話を重ねながら、
それぞれの得意なことや関心
の輪を広げていく取組です。
私もかかわっている「チ
ーム上京！」が、このたび、



RUN 伴は休止になっても
個人で実施



自宅地域の方に読み聞かせを開催

NHK 第5回「認知
症とともに生きるま
ち大賞」を受賞しま
した。受賞理由に、
「ひとりの当事者の
思いを中心にして語
り合うことから始ま
ったまちづくりだ
が、どこでも誰もが

取り組めることから、各地から関心を寄せられている」ことが
挙げられています。この「どこでも誰もが」は重要なキーワ
ードで、今後、上京区だけでなく、様々なところで「チーム〇〇」
ができていって、多くの当事者の思いが形になることで、「認
知症にだけはなりたくない」から、「認知症も悪くないよね」
に変わっていったらいいと思います。

認知症にやさしい社会は、きっと誰もが住みやすい社会だと
思います。まずは、ほんの小さな一歩から。



チーム上京！コアメンバー（地域共生カフェにて）

